



[秋田市観光クチコミ大使]

建設塗装工業(株) 代表取締役社長 吉田 幸一氏

秋田を思う心

仕事上で秋田と私の出会いは過去に3回あります。1回目は昭和57～8年頃、国鉄建設局線増課課長補佐時代。全国複線電化促進協議会(全国の鉄道の複線電化を推進するために設立された各都道府県から成る活動団体)の事務局を担当していた秋田県東京事務所の皆さんとのお付き合いから秋田らしさを学びました。ちょうどコメが過剰気味で、一方では一時日本酒が落ち込み、焼酎が流行ってきていたので、「ブラックストーン」と銘打った秋田米焼酎を造ったとのことでした。4合瓶の入れ物も黒くハイカラで、味も結構いけると評判になりました。肝心の複線電化は、国鉄も末期に差し掛かっていた頃で、鉄道輸送量の減少と国鉄財政の悪化により、思うようには進みませんでした。その後、JR東日本になってから、当時取得した線増用地は現在の秋田新幹線として活用されています。

2回目は平成元～4年頃、総合保養地域整備法(リゾート法)に基づき田沢湖地区に一大リゾートを形成しようという構想を掲げ、JR東日本の田沢湖リゾート開発の責任者として、秋田県・田沢湖町と協議を進め、地域住民の皆様とも話し合いを重ねました。県営田沢湖スキー場にJR東日本が資本参加し、フード付きクワッドリフト、スキーセンター等設備の近代化を図って集客力を高めるとともに、湖畔にはフォルクローロ田沢湖(JR東日本の小規模リゾートホテル)をオープンしました。また、秋田新幹線開業に伴い、地元の観光物産センターと合築した斬新なデザインの田沢湖駅舎も完成しました。しかし、駒ヶ岳に生息するイヌワシの保護とバブル崩壊により、そのほかの計画は中止、のちにスキー場はまた県にお返しし、ホテルは田沢湖の既存温泉経営者に譲渡することになりました。町の皆様と一緒に田沢湖の街づくりを目指そうとした夢は消えてしまいました。

そして3回目は平成18年6月からJR東日本秋田支社長として勤務した3年間です。秋田県全域と青森県津軽地域を主な営業範囲とし、五能線を走る「リゾートしらかみ」を3両から4両に編成増強するとともに、1編成にハイブリッド新車両を投入しました。沿線自治体や旅館の女将さんたち

と連携しながら、首都圏を中心とした観光客の誘致に努め、一定の成果を上げることができました。また、秋田市と話をしながら、連絡通路に出店等を増やすなど秋田駅前前の賑わいづくりも進めてきました。秋田竿燈祭りには毎夏会社の提灯持ちとして参加し、大曲の花火大会は、最初の年だけは大会提供花火までしっかりと楽しみ、あとは鉄道輸送責任者として支社の輸送指令室に籠っていました。秋田を満喫できた3年間でした。



全国的にも人気を集めている五能線を走る「リゾートしらかみ」

私はその後、仙台で仙建工業(株)の社長をしていた時に東日本大震災に遭い、新幹線の復旧をはじめ震災復興の工事に携わりながら、こういう時はまた秋田に人が流れにくくなると心を痛めていました。また、この前出張で秋田に一泊しましたが、以前秋田で勤めていた時に比べやや静かな感じがしました。

しかし、高齢化や人口の減少は日本のどの都市にも付き物です。秋田はその現象が早く来ているだけです。逆に他に先駆けて少子高齢化・人口減少社会はこうあるべしとの見本を示せる立場でもあります。その時の考え方として、行政マンがすぐに飛びつくコンパクトシティとか公共交通のあり方等ハード先行の検討を進める以前に、将来とも秋田の人が心底好きな秋田とは何かを問うことから始めることをお勧めしたいと思います。外から見ると秋田はいいところだらけです。難しい問題ではありますが、ぜひとも解を見出し、他に範を示してほしいものです。秋田頑張れ!秋田ファンより。

■ 略歴

昭和 26年	青森市生まれ
45年	岩手県立盛岡第一高等学校卒業
49年	東京大学工学部土木工学科卒業
同年	日本国有鉄道入社
62年	東日本旅客鉄道(株)入社
平成 18年	東日本旅客鉄道(株)秋田支社長
21年	仙建工業(株)代表取締役社長
27年	建設塗装工業(株)代表取締役社長
	現在に至る